

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	372300327		
法人名	特定非営利活動法人 ともにあゆむ会		
事業所名	グループホームぶどう苑 第2		
所在地	岩手県花巻市大迫町大迫1-4-55		
自己評価作成日	平成28年9月10日	評価結果市町村受理日	平成28年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;f_yosyoCd=0372300327-00&amp;PrefCd=03&amp;VerSiOnCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;f_yosyoCd=0372300327-00&amp;PrefCd=03&amp;VerSiOnCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑うほめるde元気になる」を理念に掲げ利用者の生活基盤の中での生き甲斐を共に見出し、喜びや楽しみを利用者が感じてもらえるよう追求しております。

職員には介護技術向上の為、資格取得を励行し勉強会実施研修会の参加等技術向上に力を入れております。

日頃から防災意識を高め火災や地震等を想定し定期的な避難訓練を実施しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームぶどう苑」は、1階・2階のユニットと、同一法人が経営する小規模多機能事業所が併設し、行事や避難訓練、そして、知識を高めるための勉強会、医療面でも関係機関と協力関係を築きながら、自己研鑽にも努め、地域に寄り添ったサービスを提供している。職員は、法人が策定した理念の周知・理解に努め、利用者が笑顔になれるような声掛けに心がけている。また、理事長は利用者の元気は健康からという思いから、自ら率先して、日課に日光浴・歩行を積極的に取り入れるなど、健康管理に努め、理念を実践に活かしている。利用者の表情が明るく、笑顔で話しかけてくる。提供するサービスが利用者にとって居心地のよさにつながっていると感じ取ることが出来る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基にユニット目標を年度ごとに決めており、それに向かっていけるよう目標に具体性を持ったサブテーマと共に見やすい位置に掲げ毎日唱和している。	事業所理念は、「幸せの追求」「笑う、ほめる de 元気になる」であり、職員は理念を基にしてユニット毎に毎年度目標を掲げている。理念や目標はホールなど、目につく場所に掲示するとともに、朝のミーティングで唱和して意識統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	苑の夏祭りには地域の方をお招きし家族と共に祭りを楽しんでいる。地域の夏祭りには参加させていただき繋がりをもった交流を行っている。	苑(事業所)が主催する夏祭りに、地域住民を招いて一緒に楽しんでいる。また、苑から地域に向いて「福祉について」講義したり、地域の芸術祭に利用者・職員が作成した作品を展示、参加している。近隣の農家から野菜のおすそわけが多くある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域主催の文化祭で作品を出展し、合せて施設の概要を説明している。利用者の生活を知ってもらう事で多方面への認知症への理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方々に苑の行事に参加して頂き直接利用者と触れ合う機会を持っている。そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は地区民生児童委員、社協職員、行政、利用者家族などで構成され、年6回、開催して運営状況や課題について話し合いを行っている。また、駐在所や消防署員が出席することもあり、専門知識をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方には異世代交流会や敬老会の行事に参加して頂き意見やご指導を頂いている。	ぶどう苑は、大迫総合支所と隣接し、市民サービス課職員が運営推進会議のメンバーとして出席していることから、事業所の運営状況や取り組みを把握し、意見や提案を受けることが容易に出来る。困難事例について直接相談に行くこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は法令に関する事を勉強会等で理解している。玄関は施錠しておらず安全に考慮しながら見守りを行っている。	身体拘束に関する外部研修に参加した職員は、内容・気づき・感想などについてユニット会議などで話し合い、共有認識を図って身体拘束をしないケアの実践に努めている。玄関の施錠は、一般家庭と同様に夜間のみ行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現場では利用者への虐待に繋がる言動が無いようスタッフ間で常に話し合う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現場では成年後見人制度を利用されていた利用者があり、個々に必要な関係機関と密に話し合い、活用できるよう支援体制を整えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所者・家族には契約内容を納得されるまで十分な説明を行い、入所に際しての疑問質問に細かく応じ安心して生活して頂ける様に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族の来苑時に要望を聞くように心がけている。日々の様子を写真掲示する等外部の方の目にも触れる機会に努めている	家族が利用者の定期的な受診や面会の為に来訪した場合は、利用者の状況を伝えると共に、話しやすい雰囲気でも要望や意見を聞き出せるように心がけている。事業所内に意見箱を設置して、直接言いにくいことも表せるように配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の主任会議やユニット毎の会議で職員の意見を聞く機会を設け、良いアイデアは日々の業務に取り入れ反映させている	理事長は、職員から業務上での要望や意見は、いつでも聞くようにしているが、定期的開催するユニット会議などで職員個々の提案・要望を促す機会を設けている。冷蔵庫の購入や手すりの設置、行事内容の提案など業務に取り入れた例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	食事検討委員、レクリエーション委員会、レベルアップ委員を作り職員の意見や提案を自由に出せる機会を作り常に向上心をもてるような職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修会、勉強会に参加する機会を設け参加後は会議等で報告したり資料を回覧し、ケアの技術を学びスタッフ同士共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員連絡協議会と市のケアサービス事業所の合同研修会に参加したり開設者研修の受け入れをしたり等機会を作り同業者と交流できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアサービス計画書を作成するにあたり本人の思い不安な事、要望等事前調査で細かくお聞きしそれを基に安心な生活を構築できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアサービス計画書を作成するにあたり本人の意見を踏まえ家族等が困っている事、不安、要望に耳を傾け安心信頼につなげて行ける様に良い関係作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の家族が今必要としているサービスを主に、細かい支援ができるよう具体的な内容を検討し、他のサービスも含めそれが安心に繋がるような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で会話を通じて思いを話たり日常作業を共に行ったりなるべく家庭的な雰囲気の中で自立支援につなげて行けることを目標に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来苑された場合は利用者の居室でゆっくり話が出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	夏祭りやイベントがある場合、家族に連絡して一緒に過ごしていただいている。	地域は雛まつりや行燈まつりなど、伝統のある行事が多く、利用者は見学に出かけて懐かしい知り合いに出会い、会話を楽しむことが多くある。また、以前から馴染みの理・美容院に定期的に出かけたり、知人の訪問を受けることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動を楽しんでいただいたり利用者同志会話が弾んだものになるよう生活環境に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネージャを中心としたスタッフがこれまでの関係を断ち切ることなく家族や本人の相談に応じ今後についても情報やアドバイスをを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活環境、服装等今までこだわりのある方にもなるべく思いに添えるよう希望や意見の把握に努めている。	日常の何気ない会話や仕草から、利用者個々の思いや希望を汲み取るように心がけている。意思疎通が困難な利用者への対応は、家族からの情報を基に検討し、職員間で話し合い、共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人これまでの生活になるべく近く馴染みの暮らしができるようサービス内容に取り入れ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の表情・身体状態を把握し本人が求める生活スタイルや暮らしをサービスに取りれている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一か月に一度ユニット会議の中で本人家族の意向を基に必要な支援方法の方向付けを行いアイデアや意見を積極的に取り入れ反映できるよう現状に沿ったサービス計画作り努めている。	利用者の介護計画は、担当職員を中心にモニタリングを行い、家族の面会時などに意向を聴取したうえで、定期的開催するユニット会議で、アイデアや意見を出し、方向づけを話し合い、ケアマネージャーが中心となって作成し、現状に即したものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録の中に利用者に沿った支援項目を取り入れ実践に努めている。内容は会議で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々利用者や家族がやりたい事、できる事を中心に考え気付き工夫を常に模索し活かせる様取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる歌や踊り、紙芝居を楽しんだり講師によるカラオケ・習字教室で利用者の個性が発揮できるよう支援している。保育園児中学生との交流も大変喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される病院を受診して頂いており受診時は情報提供書を提出したり必要な時は職員が同行している。	医療機関は、本人・家族の意向に沿って利用している。基本的に、受診は家族の付き添いにより行われ、担当医に現在の状況を記した「情報提供書」を提出している。家族の都合がつかない場合は、職員が送迎し、受診内容を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化気づきは看護職に伝え指示を受け早期対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が見舞いに行き、利用者の状態を把握し、安心して退院できるよう情報を収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期については家族の希望に近づけるよう話し合いをし、関係者から情報を収集し共有している。	重度化した場合や終末期について、入居時に「看取り指針」を基に説明し、家族の理解を得て希望に沿った対応に心がけている。職員は、同一法人が運営する訪問看護ステーションの勉強会に参加するなど、医師・看護師との連携に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行っている。特に初期対応に力をいれており、何度か応急手当の訓練を通し実践につなげて行ける様努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回地域の方々の協力の基色々設定を変え訓練し、協力体制の構築を図る。	避難訓練は、消防署職員の立会のもと、年2回実施し、避難場所での見守り要員として地域住民の協力を得ている。非常時の備蓄として食料品・石油ストーブ・ランタン・発電機などを準備し、定期的に点検している。	訓練は、夜間想定など、設定に工夫が見られる。しかし、事業所は河川に近いこともあるため、今後、最近の自然災害等から考えられる風・水害を想定した訓練の実施に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導は周りに配慮した声掛けをしパット交換は随時本人に確認しながら行っている。	利用者との日常的な会話の中で、否定的な言葉や自尊心を傷つけないような対応に留意している。トイレ誘導や入浴時は、羞恥心やプライドに配慮し、周囲に知られないように、さりげない対応と声掛けによる支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な行事やレク等は本人に確認しながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調、好みを尊重しながら無理なくゆっくりと一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装ができるよう衣替えをし、床屋や化粧品は本人の希望を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目でも楽しんでもらえるよう彩り「や盛り付けに気を付けている。誕生日には希望メニューを取り入れている。食事の片付は利用者の体力に合わせて手伝って頂き感謝を伝えている。	季節毎の行事に合わせた食材や天候により、苑庭での食事、流しそうめんなど、食事は工夫した内容となっている。近隣からの差し入れ野菜は、利用者と共に食材を刻んで調理し、味付けなどを話題にしながら、一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量は体調により変えたりしている。水分が摂れない方は声掛けや介助をして水分不足にならないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立した方は声掛けで、介助の必要な方はできるところはして頂きながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握して声掛け、定時のトイレ誘導を行い個人の尊厳を損なう事の無いよう排泄支援をしている。	トイレチェック表を活用したり、表情や動作を観察して利用者個々の排泄パターンや把握に努め、自尊心を損ねないように誘導し、可能な限りトイレでの排泄が出来るように支援している。トイレは車イス利用者にも十分なスペースで整備している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排泄チェックを行い、便秘薬の服用、起床時に冷牛乳飲用で対応している。その他歩行、便秘体操と体を動かし運動を実践している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが体調や拒む利用者は日を改めて調整している。浴槽、シャワー、機械浴で利用者に沿った支援をしている。	入浴は、利用者の体調にあわせて週3回を目途に、一般浴槽、機械浴、シャワー浴により本人の希望に沿って行っている。介助を要する利用者が同性介助を希望する場合は、意向に配慮した対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠ができない利用者には寄り添い話に耳を傾け思いを聞くようにしている。また、温かい飲み物を提供したり個々に対応を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服薬ノートを作成し受診時の記録を綴り職員間で共有している。薬の変更時や医師からの指示を記入し服薬後の経過に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活のリハビリとして食事の配膳、下膳、食器洗い、食器拭き等の役割を持って生活している。外気浴、おやつ作り行事の参加と気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地区内での行事への参加やドライブ、買い物等戸外に出かける機会を設けている。	天気の良い日は、職員と近隣を散歩することを日課とし、苑庭でぶどう狩りを楽しむこともある。また、花見弁当を持って戸外で食事をするなど、可能な限り日光浴を多く取り入れるように配慮している。地域のイベントや買い物など外出の機会が多くあり、家族と外食することもある。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぶどう苑(第2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の一時立替金で必要な物を買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族や外部への電話を希望する場合は勿論施設にいても繋がりを絶つことのないよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	階段の壁には季節の行事の写真を貼りホールには習字や作品を飾っていつでも誰の目にも触れる様にしている。二階は明るい大きい窓が特徴で早池峰山を始めとし、春は桜、冬は白鳥と四季を常に目で楽しむ事ができる。	居間兼食堂は、ほどよい自然の明るさを保ち、時季にあわせた温度管理により居心地よい。利用者は、ホールに置かれたソファで自由にゆったりと過ごすことができる。壁面に楽しかった行事でのスナップ写真や風景写真、書道、手芸品等を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時意外は特に決まった席はなくレク活動に合わせてテレビ、ソファを組み合わせ個々がゆっくりとくつろぐスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス、時計、写真や置物を思い思いに使用している。中にはキリスト像の写真に毎日お祈りしている方もいる。	各居室に、暖房器具や利用者個々の身体状況に合わせたベッドを設置している。利用者本人が、使い慣れた物の持ち込み可能とし、タンスや時計、家族の写真を傍に置くなど、安心して居心地の良い場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表記の文字を大きく掲示し、トイレや居室の場所をわかりやすくしている。やれる事は自発を促すよう積極的に支援し生活につなげている。		